

令和6年度第1回清瀬市社会教育委員の会議 議事録

令和6年度第1回清瀬市社会教育委員の会議が令和6年5月20日に開催された。
出席委員、議事の概要は次のとおり。

日 時 令和6年5月20日（月）午前10時から午前11時30分まで

開催場所 清瀬市役所本庁舎 4階 研修室2（対面開催、オンライン出席者有）

出席委員 （対面参加）
西田委員、松山委員、玉置委員
（オンライン参加）
倉持議長

欠席委員 齊藤副議長、永嶋委員、長沼委員

事務局 生涯学習スポーツ課 上竹係長、峰岸主査、成田

次第1 開会

事務局より

- ・開催方法の確認（対面開催、倉持議長はオンラインで途中参加
齊藤副議長、永嶋委員、長沼委員は欠席）
- ・資料の確認

2 議題

- （1）4ブロック研修会について（タイトル・事例報告の検討、登壇者の推薦等）
- （2）不登校支援について（イベントや活動の原案）

（事務局）

（倉持議長が途中参加、齊藤副議長が欠席のため、事務局で進行を代理）

令和6年度第1回清瀬市社会教育委員の会議を始める。

社会教育委員のメンバーの異動からお知らせしたい。

学校教育の立場から委員をお願いしていた相蘇委員が、学校側の担当任期の終了から、第四小学校の長沼校長が後任としてご担当していただくことになった。2年ごとに担当が変わることから、4月に相蘇委員から長沼委員に変わった。

既に長沼校長には教育委員会から委嘱をさせていただいており、本日は学校の公務が入っているということで欠席になっているため、出席された際に改めてご紹介させていただ

く。事務局からは新たに峰岸主査が着任し、出席させていただくことになった。

(峰岸主査)

私は令和4年度まで生涯学習スポーツ課におりましたが、令和5年度に水と緑の公園課という、主に公園の管理をする係で仕事をしておりました。4月1日付で、生涯学習スポーツ課生涯学習スポーツ係の主査として戻って参りました。

また1年間皆様と一緒に社会教育の、清瀬のためになればと思っております。

(事務局)

倉持議長がまだ参加していないので、議題を飛ばし、3番目の報告を事務局から行う。

令和6年度東京都町村社会教育委員連絡協議会定期総会が4月20日に行われ、倉持議長と事務局の上竹が出席させていただいた。

要点としては、中で報告があったのは、令和5年度の各ブロックの事業報告、令和5年度の収支決算報告が報告され、令和6年度の事業計画案が提示され、承認された。来年度、清瀬市が4ブロック幹事市となっております。

定期総会終了後、明治大学の小林繁氏による講演会「共に学びあう社会教育の実現に向けて」がありました。詳細は資料にて確認して欲しい。報告は以上です。

前回、倉持議長からのテーマ・方法案ということで、資料2枚目を参考に話を進めたい。3枚目に各委員からのテーマ案・発表案をいただいた。ご意見をいただいた内容について、各委員から簡単にご説明いただきながら、ご意見をまとめさせていただければと思う。西田委員からお願いします。

(西田委員)

テーマ案については同じような内容の方も多いと思うが、「我がことにする」ということで、「あなたと考える」と入れた。2番目も同じだが、若い世代の参画から始める担い手育成ということで、前回の話の中でもスポットが当たっていたように思ったので入れた。「我が事、自分事」というのを入れたいと思い、3つ同じようなイメージ。

事例発表は、不登校と若者の居場所という支援者ネットワークの紹介と、命の教育については、私は直接的には関りは無いが、長年継続してやっているというところで、毎回教育長が話をしてくださるので入れた。

3つ目は、「育ちのシェアステーションつぼみ」が地域の児童養護施設だが、ここでは日本大学の助成金を使って、児童養護施設の垣根を低く、地域の子供たちの居場所づくりを行っている。それと、子ども食堂おひさまネットワークと連携して、基本的には登録制で始まっているが、今は土曜開放ということで、地域の小中学生に大変人気があり賑わっている。

今後、不登校の現状を知る情報共有の場が必要だと強く感じていて、それぞれ専門でやっている部分しか分からない状況なので、情報共有の場があったらいいと。私自身も知りたいし、不登校の方々や親御さんにも会える環境の場を整備するのがいいと思う。

今、不登校児については、学校に戻すことだけを目指すのではなく、学校でも家でもない居場所を持っていて、地域の方たちに、見守られながら成長し、自己実現を目指していくというストーリーをこれまでに何人か見て来た。子供たちが一人一人自分の目標や夢を言語化することが出来れば、すごく強く生きていけるというのを確信している。その後の

展望については、ただ発表、資料を配布して完了ではなく、子どもや個々の家庭の状況に合わせた居場所が必要で、色々なタイプの居場所がたくさんあるといい。他の団体と連携協働しながら、居場所を作りたい。

(事務局)

不登校は個人でも色々に対応が必要になるとのことで、状況はいかがか。

(西田委員)

一般市民の考え方としても、不登校に対する偏見は今だにある。その偏見を子どもたちはすごく強く感じているので、例えば、清明小学校区の方が梅園の居場所へ来るとか、昼間歩いているところを見られたくないとか。そのようなセンシティブなことにまで対応していく必要がある。一般市民の理解がいて感じる。子ども食堂にしても、貧困だから来るとか、可哀想な子の印象付け、印象操作がされていると感じる。

実際、普通に学校に来ていて、たまたまシングルでお母さんが忙しいだけとか、頑張りすぎて病気を発症し、ヤングケアラーに近くなってしまったとか、誰にでも起こり得る日常だと思う。

(事務局)

松山委員お願いします。

(松山委員)

「若者とともにつくる地域を目指して～多様な担い手を育てる仕組みを考える」と「若者が力を発揮できる地域をつくる～担い手育成の視点から」とほぼ同じですが、二つ考えた。まず来られる方が若者自身ではないと思い、行政側が力を発揮できる地域をつくる方がもしかしたらいいのか。一つ目の案だと、若者も一緒に参加するように取れる。不登校の子だけではなく、その子たちも含めた若い世代の子たちが幸せになれる地域。

(玉置委員)

テーマとしては、地域共生社会ということの、第一歩として、出会い学びのプラットフォームということ。備考欄にある多分野、多世代が繋がるまちづくりということで、年齢問わず、色々な人が出会う場で次の担い手不足を解消する目的にできれば。社会参加の場の充実、環境づくり。

あと、共通の趣味関心からの繋がり。清瀬市が住みよい地域になるようなまちづくりにしていきたいということでまとめたテーマ。

(事務局)

欠席の委員からいただいたテーマを事務局から紹介する。齊藤副議長は「集まれ！みんなを支える地域の輪」。相蘇委員から「若者が育つ 大人も育つ みんなを支える社会教育」。永嶋委員より「小学校で活躍する50年前の小学生たち～世代間交流の「場」を考える～」。

このテーマの背景として、地域の担い手になる人は、大抵はその地域に愛着を持っている人。多くはその地域で生まれ育ちずっと住んでいる人か、または、一旦故郷を離れたけれど戻ってきた人。新参者もいるが、その土地で生まれ育った人ほど郷土愛があるのが普

通。小学校こそが、地域の住民や高齢者のたまり場になるべきだと考える。ある私立大学では、地域の高齢者たちがティーチング・アシスタント・ボランティアとして、演習授業のお手伝いに入っている。大学よりもむしろ小学校のほうが面白いのではないか、という意味のテーマ設定。

事務局からもテーマを三つ出している。「笑顔をつなげる地域活動を目指して～若い世代の担い手育成を考える～」 「子どもと社会をつなげる地域づくり～多様な世代の参加で始まる次世代の担い手育成～」 「10年後の未来へ。～若者による継続した地域活動支援のあり方～」。

各委員、意見はいかがか。

(松山委員)

今地域でも不登校の問題は深刻。ただ、不登校や不登校支援をテーマにしたときに、福祉寄りになると思う。そこをうまく社会教育として具体的に不登校支援を考える。そういう子たちも含めた子どもたちを、どう地域で育てていくかという大きなテーマの中で、個別具体的なテーマとして、今回はそういう位置づけがいいかと思う。

(西田委員)

地域で子どもを育てる取組。大半は学校に行っている子。ただ、学校に行っていない子もいる。

(玉置委員)

例えば、不登校をテーマとしたときに、不登校だった人やその親御さんと呼ぶとか。そういう方を登壇者に呼ぶというのは難しいか。

不登校には、いじめじゃなくても、ただ行きたくないとか、先生が嫌だとか、色々な理由がある。実際に不登校を体験して、今はもう普通に社会人になった方の実体験。そこから何か色々と見えてくるのかと思う。

<倉持議長が途中参加>

(倉持議長)

教育委員との意見交換も不登校がテーマではあったが、前回の話し合いだと、この地域の担い手の話と、子供や若者の支援というところを少し重ねるような形で、テーマにできるといいというのが前回の話だったと思う。

(倉持議長)

不登校に絞るか。不登校に絞るとテーマをかなり固定化されるという意味ではいいと思うが、不登校気味とか、不登校に限らず、若者の場や体験、交流とかを少し入れて、その中の報告の一つが不登校という形ももちろんできると思う。社会教育委員の研修会で、色々な立場の方がいらっしやと思う。その辺もテーマを焦点化して、そこをしっかりと学んでもらうというのもいいと思う。色々な関心がちょっとずつ繋がるようなテーマがいいと思うが、どうか。当事者の話を聞くというのはすごくいいと思う。逆にその色々な観点を聞く、色々な支援をしている団体とか、活動者の方に話を聞くというのもいいとは思いますが、

どうか。

(松山委員)

テーマを絞るに当たってゴールのイメージというか、集まった皆さんと、清瀬市としてどういう成果が得られたら、今回良い結果だったと思ってもらえるかを先に少しイメージしてはどうか。色々な社会教育関係の方々が来られていて、清瀬の地域の方々も来られる。一般の方々には来られないのか。

(倉持議長)

調布市のように、ブロック研修会で部分的に一般市民公開のようにできないことはないと思う。私が記憶しているのは、調布市がよく芝居をやられて、芝居の後にディスカッションをするといったブロック研修会に出たことがある。芝居の演劇の部分は一般市民の方も参加していた。キャパの問題や、元々の趣旨はブロックの社会教育委員の研修や学び合いの場ということだと思うが、いいアイデアだと思う。

前回、事例検討と話し合いの形がいかと話した。進め方、目的という話と、テーマかと思っているが。事例を二つ三つ聞いて、その後グループディスカッションを色々な委員と交わり、意見交換や情報交換をするというのであれば、色々な話を聞いた上で、どういうことをディスカッションするかというテーマ設定や目的がすごく大事になってくるかと思う。

前回会議で、地域の担い手と若い世代の参加のようなことを合わせたテーマがいいのではというのが、何となくの方向性として出た。改めて不登校支援というところを重ね合わせていくというやり方もある。

西田委員より、今登壇者の候補として挙げていただいている。例えばどのような話を聞けそうか。

(西田委員)

不登校に関しては、支援者のネットワークを作り始めて2年目になる。社会資源も不登校の子供たちに限らず、地域の子供たちが行える社会資源のマップ作りの輪が今始まっていて、その取り組みを公開してもいいのかと思う。

(倉元議長)

ウイズアイですよ。

(西田委員)

そうです。

二つ目は、長年、小学校と中学校で、子育て支援のNPOが2つ関わって取り組まれている。

三つ目は清瀬で古くからある児童養護施設が、地域の子供たちの居場所作りにチャレンジしている。今年で3年目になるが、そこと子ども食堂が協働して、地域で子供を育てることをやっている。児童養護施設の垣根を下げているところは、全国的に先駆的な取り組みがだと思った。

(倉持議長)

まさに地域で子供を育てる活動と、それを支えている組織団体の連携とか協働。市民協働、連携協働、福祉とか教育の領域の協働とか連携。NPOやボランティアな形で関わっていると思う。団体がどう繋がり、担い手をどう育てたり見つけたり、繋がったりしていくかという話ができる。

(西田委員)

ただ、すごく福祉寄りにはなる。

あまり福祉に寄らない。そこをどのように見せるかというのは考えるべき。

(倉持議長)

少し福祉色強めという感じもするので、どこか差し替えるときに、何か子供の活動や支援で、また少しジャンルや色が違う、しかし何か行政やその色々な部署と連携協働してやっているような活動の団体は何かあるか。

(西田委員)

学校支援本部とかはいかがか。

別の会議だが、研修の中でコミュニティスクールではなく、十小の鈴木校長がスクールコミュニティを目指すという話をしている。それはこの資料の中で永嶋委員が言うような、学校を中心に、地域と担い手の育成に関わってくると思い、私の中でスクールコミュニティという言葉が頭の中でのキーワード。

(倉持議長)

私は学芸大の関係で、きよセラボに話を伺ったことがある。

(西田委員)

現役の小中学生の父兄で成り立っている。理事長、副理事長もよく知っていて、一緒に活動をしていて、普段から事業を共有している。

(倉持議長)

結構若い世代、保護者世代が色々な活動をされている。今なかなかPTAとかも難しい中で、こうした活動をしているのは特徴的な活動かと思う。

(倉持議長)

学校と保護者、不登校も含めて、子供の居場所とかの支援。

(松山委員)

もし、大学も巻き込んで行くとしたら、今回色々な関係社会のネットワーク作りのヒントもあるかも知れない。

(倉持議長)

不登校も含めて、ネットワークも大事だという話もしているところ。そこに報告が入っ

てもらおう。少し福祉色を薄めつつ、大事な領域が重なるというところも出せる。あとは、色々な地区の社会教育委員が意見を出しやすいかも知れない。

(西田委員)

子供たちを巻き込んだ演劇や音楽も積極的にされているので、色々な観点で入ってくる子供が多い。絵なら書けるとか、前には出られないけど、衣装作るのが好きとか。高校を中退した子が関わっていたりする。

(倉持議長)

社会教育で言うと、文化団体や体協とか、色々なバックグラウンドで参加される方もいるだろう。そういうところから子供の居場所を作るというような議論のきっかけになりそう。西田委員の報告で、不登校のネットワークのウイズアイのこの取り組み。

報告いただく事例は二つか三つかだと思う。研修の時間が全体で2時間。後半1時間ぐらい議論したい。キーワードは子供。ネットワークや連携などもキーワードになるか。

(松山委員)

担い手づくりや参画は、前回からキーワードだった。支援をされる子ども像ではなく、なるべく子どもが主体的に関わるような話しが聞けるといいのかと。もしくは、そのための準備の場作り。

(松山委員)

具体的にどのような活動をしているか。

(西田委員)

元々は子ども食堂を別の場所でやっていて、その場所をつぼみに移して、50人ぐらいの子どもたちを対象にご飯を提供している。

(松山委員)

地域の方が関わっているのか。

(西田委員)

その通り。ボランティアで、そのために支援者の養成講座を連絡会の中でやっている。

(西田委員)

担い手というのが、すごく抽象的。何を担うのかと思う。事務局の案の10年後の清瀬を担うという担い手か。

(倉持議長)

確かに、「子供とか若者自体が清瀬の将来の担い手だ」という意味の観点と、「今そのような子供や若者が、地域に参加参画して、一人一人生き生きと、コンパートメントしていく活動や場を担う大人の方の担い手」、「運営側、支援側の担い手」という観点。さらに「それを支える仕組みという部分の担い手」と、確かに少し複層的。

(倉持議長)

そして、この担い手の議論は本当に難しい。最近どこでも、何のテーマでも担い手が困難だと聞いている。

(松山委員)

私のテーマ案は担い手をたくさん必須としている。10年後の清瀬を担う担い手として若者を育てるということ。例えば、不登校で生きづらさを抱えている子たちがどう幸せに生きるかということが、直接結びついていない感じがしている。むしろ、担わせることが、果たして幸せに結びつくのかとってしまう。もう少し、本人たちがどう生きたいかということが議論できないかと考えている。

先程の当事者の話ではないが、不登校の子に限らず、子供が呼べないかと思っている。大人は担い手育成を考えているがどうかということが話せたらいいと思う。

(事務局)

研修会当日は10月4日の金曜日。

(倉持議長)

せいぜい大学生か。このような活動に携わっているボランティアの大学生とかに来てもらうのであれば、可能性がないとは言えないか。

(西田委員)

玉置委員が仰った、不登校の当事者を呼ぶというのもウイズアイでは何度かやっている。それは急性期の不登校のお子さんの保護者向けで、有効だったと感じている。

(倉持議長)

一つは、そのような活動に関わっている大学生や若い世代に来てもらう。また、そのような地域で育てられた、その地域の活動に関わってきた経験を持つ人に来てもらう。そういう方に自分自身の経験を踏まえて話してもらう。

(松山委員)

先程、担い手がだいぶ複層的になっていて、そこを整理する必要があるのではという話があった。むしろ、若者や子どもが未来の担い手になっていくということは、やはり当事者である子どもがいないと、押し付け的な議論で終わりそうだと思う。

ただ、今の子どもが豊かに育ち、地域の子どもをどう育てるか。その担い手を私たちがどのようなことを大事にしながら、どのような仕組みで動いていくのがより良いのか。現時点の担い手を考えるのであれば、特に当事者や近い人を呼ぶ必要はあまり無いのかと。

(倉持議長)

社会教育委員として、どう今の担い手を支えたり、繋いでいく仕組みを考えていくのかという議論をするのが良さそう。もちろんその背後には、今の若者たちや子供たちを理解するということがあってこそ。それを踏まえてどのタイトルが良いか。

(西田委員)

事務局の「子供と社会をつなげる地域づくり」がわかりやすい。「多様な世代」で色々な人が関わっているというイメージがしやすい。

(倉持議長)

この「次世代の担い手育成」の次世代を取ると、今の話に近いという感じか。「子供と社会をつなげる地域づくり～多様な世代の参加で始まる担い手育成～」ではいかがか。

(松山委員)

子供と社会をつなげる地域づくりはいいと思う。コミュニティスクールにも繋がりそうだ。

(倉持議長)

副題の方はまだ直しようもあが、メインのタイトルは「子供と社会をつなげる地域づくり」で良いか。

(西田委員)

分かりやすいと思う。

(倉持議長)

では、これを仮決定とする。
報告者は2組ないし3組にて依頼する。
西田委員、登壇の候補者はいるか。

(西田委員)

子供と社会をつなげる地域づくりというタイトルなら、子ども劇場や他にも候補が出てくる。

(倉持議長)

報告者はいつまでに決まればいいのか。

(事務局)

登壇を依頼するにはタイミングとして今日が望ましい。

(倉持議長)

確かに、次の会議の7月29日以降に依頼し、10月に登壇は少し遅いと感じる。今日候補者を挙げ、スケジュール調整を依頼するところまでは行きたい。
ちなみに、西田委員が挙げた子ども劇場は清瀬を拠点に活動しているのか。

(西田委員)

清瀬を拠点に活動している。不登校の親の会や、色々な体験活動など。今はフリースクールを作る活動をしていると聞いている。

(倉持議長)

玉置委員、体育系の団体で、何か子供と一緒に活動しているところはあるか。

(玉置委員)

清瀬で活動している団体を探してみる。

今このような議論というのは当然大人側からの意見。子供の意見として、将来どのような社会がいいかというようなデータは清瀬市にあるか。我々大人が思っていることと、子供が思っていることのギャップ。そのようなアンケートや資料はあるか。実際、清瀬の子供はどう思っているのかが気になる。

(事務局)

今はそのようなデータは無い。

(倉持議長)

確かに、市民に対する意識調査を行う場合があると思うが、子供に対するこのような調査はあまり聞いたことない。

清瀬には子供会議や子供議会のようなものがあるか。

(事務局)

特にそのようなものは無い。

(倉持議長)

何かそのようなもので出た意見などがあれば、少し発表するのも面白いと思う。

もう一度話を戻すが、登壇者に報告してもらおう事例として、集う場ということで、西田委員が挙げたウイズアイ、ピッコロ、育ちのシェアステーションつぼみ、おひさま、でよいか。

子どもの活動ということでは、きよセラボ、子供劇場、コミュニティスクール、学校支援本部。テーマ案としては、「子供と社会をつなげる地域づくり」が良いと思うが、いかがか。

(西田委員・松山委員・玉置委員)

良いと思う。

(倉持議長)

事例が二つだったら一つの事例をしっかり聞けると思う。三つにするとバリエーション豊かに聞けると思う。きよセラボやウイズアイなどに来ていただき、二つの事例をそれぞれしっかりと話してもらい、ディスカッションのような形も良いかと思う。もう一つぐらいあっても良いかと思う。

(松山委員)

どちらもNPOなので、行政や学校が主体的に繋げている事例などがあると良いと思う。

(事務局)

学校支援本部に声をかけるなどで対応できると思う。

(松山委員)

コミュニティスクールは今どのくらい活動が進んでいるか。

(事務局)

全校ではない。現在2校で段階的に設置を拡張中。

(松山委員)

コミュニティスクールはまさに子どもと社会をつなげる地域づくり。進められているところで話が聞けると良い。

(倉持議長)

では事務局に情報収集してもらい、依頼できるか相談してもらおう。今日仮決定とすると、テーマは「子どもと社会をつなげる地域づくり」。

報告は、きよセラボやウイズアイなどに打診する。

もう一つの報告として、コミュニティスクールで誰か報告いただける方を探してもらい、情報共有してもらおう。前半は事例報告、後半は参加された市の方と交わり、感想や質疑応答、情報交換など。詳細は7月の会議で良いか。2時間の使い方などを協議できると良い。

最後に皆で発表して共有するというように、ある程度結果を出すような形で持っていくのか。オープンエンドで、あの話良かったという感じで終わるのか。7月は役割分担を決めないといけない。司会を誰がやるか。まとめを誰がやるかなど。

(事務局)

登壇される方にどのような内容で依頼をするか。

(倉持議長)

テーマが子どもと社会をつなげる地域づくりなので、基本的にはどのような活動をしているのか。それぞれの団体が行っている、子どもと社会をつなげる地域づくりや、多様な世代の参加や交流を促すような取り組み。もう一つのテーマが担い手ということなので、どのような人たちがその活動を担っているのか。担い手同士の繋がりや多岐に渡る部署との連携など。担い手として抱えている課題などがあれば話していただく。子どもの様子も少し伺えるといい。どのような子供が活動に参加していて、その様子や反応なども聞けるといい。

活動に携わっている担い手はどのような人たちで、どのような苦労があり、問題意識や課題を持っているのか。大きくその三つか。

(松山委員)

共に創るという視点。子供や若者と共に創る地域ということで、どのようなところが大事で、何を大切にしていけばいいのかなど。私個人としては、子供本人たちがどう生きたいか、地域をどう思っているか。主役として主体的に関われるような場にしていく必要があると思う。

不登校支援の場もどうしているのか。それぞれの視点で参画や主体性を考えているのかを聞いてみたいと思う。

(倉持議長)

教育長から不登校支援について、ネットワークの方向を考えてほしいと言われている。この辺も意見交換ができたらいいいと思っている。

不登校支援のネットワークについて、社会教育委員としてできることを提案するという事になった。活動や事例、取り組み等を紹介いただきたいと思う。

(西田委員)

不登校の子供たちをどうするのが良いのか。学校に戻るのが最優先なのか。不登校と言っても、親が行かなくていいと言って子供が行かないケースもある。行きたくても行けない子供もいる。

私は今、適応指導教室で調理実習を担当している。今年度中学生の登録がすごく少ない。不登校は増えているが、適応指導教室がうまく活用されていないのではないと思う。現状の在り方を考えるのが、まずは最優先かと思う。今ある資源をもう一度見直すのが有効。

(倉持議長)

不登校に様々なグラデーションや原因があり、まずはそのような実態やどのような支援の場があるかということ整理する。そこから取り組んでみるのが良いという意見ありがとうございます。

(松山委員)

例えば支援団体であれば、情報共有やプラットフォームが必要だと思う。西田委員が言われたように、より理解者を増やす場を設けることや、不登校支援の場に関わって何かやってみてほしいと思える人が増えるようなきっかけづくりの場を、間口の広い機会を作っていくようなことは出来ると思う。社会教育委員が現状を学び、清瀬に資源がどのくらいあり、それが今どのような状況なのかを知る必要がある。より応援者を増やす方向の活動と、社会教育委員自身がきちんと勉強した上で、次に何が出来るかというステップに進むための勉強をする必要があると思う。

(倉持議長)

私たちが学ぶことで整理をしつつ、どうしたら広げられるかということに次を考える。私たちが学ぶプロセスが、その次のプロセスと少し繋がるかもしれない。

(玉置委員)

情報共有のところで、西田委員の関わっている支援者ネットワークの方と少し話ができるか。まず現状を知って、そこから何をすればいいのかというように進めたい。まず、自

分自身が学びたい。

(倉持議長)

私たちが学ぶために、直接話を聞くというのは良いと思う。どなたかに来てもらう、もしくは私たちが行って話を聞く。

今年度の社会教育委員の会議のスケジュールに、それを組み込むことは可能か。

(事務局)

社会教育委員の皆さんが伺う、または講師に来ていただくということは可能。

(倉持議長)

まずは実態や現状を整理して、私たちが現状を知り、そしてそれをどう広げていくか。

今日いただいた意見をもとに、7月の会議でできそうなことや教育長からの資料、事務局からの資料で全体像として把握すること。今後どうすればよいかを考えていきたい。

本日欠席の委員にも改めて意見を伺い、いただいた意見も踏まえて、7月の会議の進め方を考えながらスタートするという感じでできたらよいと思う。

では、本日の令和6年度第1回清瀬市社会教育委員の会議を終了する。